

# 公益社団法人 横芝光町シルバー人材センター

## 令和6年度 事業計画

### 1. 基本方針

令和6年は1月1日午後4過ぎに発生した能登半島地震で幕を開けました。甚大な被害をもたらし、たくさんの尊い命が奪われてしまいました。現在も避難生活を余儀なくされているたくさんの方々が不便な毎日を過ごしています。世界各地の地域紛争や待ったなしの温暖化対策など、我々に突き付けられている問題は山積しています。シルバー人材センターに身を置く一人として何か自分にできることはないのだろうか？何か貢献できるものはないのだろうか？と、いつも自問自答しています。確かに一人の人間が出来ることは限られています。しかし、立ち止まって振り返ってみてください。私たちには横芝光町だけで180人余の仲間がいます。全国においては70万人ものシルバー会員の方々が私たちと同じように活動しているのです。この仲間たちと同じ方向を向いて歩みを進められたらと想像するとわくわくしませんか？

さて、当センターの令和6年度事業の基本方針をご説明いたします。上記のように社会は目まぐるしいスピードで変化しています。

ボランティア活動などの社会貢献はもとより、お客様との透明性を図るうえでは、契約方法の見直しも避けては取れない事案です。また、日々の煩雑な業務内容を見るとずいぶん無駄なことが多く見受けられます。センターでは新年度を機に事務局体制を強化して、今後の対応に備えています。まず手始めに業務の効率化を図るうえで、デジタル化を進めてまいります。皆さん高齢なのでハードルは高いと思いますが時間をかけて進めてまいりたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

次に、ここ数年の課題になっていますが、会員増加に伴う就業機会の掘り起こしが急務になっております。ご高齢の方や、身体的にハンディキャップのある方など、現状の業務内容に適さない人が少なからず存在しており就業率の低さにつながっています。特に女性会員数の低さがその要因を物語っているように思われます。独自事業の開発を含め就業の場の確保に全力で取り組んでいかねばなりません。

現在町内の企業で働いている会員さんの数が、50名近くおります。しかしながら7割以上が請負での勤務であり、安全就業ガイドラインからは外れており企業側の理解を求めながら派遣での就業を進めて参ります。

最後に、シルバー人材センターの理念でもある社会奉仕活動の参加も積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

## 【重点項目】

1. 請負業務から派遣業務への完全移行
2. 新規事業開拓で就業率のアップを図る
3. 互助会での活動を前進させて女性会員100人計画を推進する
4. 業務形態を根本から見直しデジタル化への積極的な取り組みをする
5. ボランティア活動の実施
6. 安全就業の徹底と見直し

## 2. 事業計画

### 1. 請負業務から派遣業務への完全移行

前述したように町内の企業で働いている会員の皆様は殆んど請負契約で働いています。発注元との関係もありますが、請負契約では、客先は仕事の指示ができないとか、週20時間以上の勤務を強いられるとか、ガイドラインに抵触する事項が数多くあります。また、仕事先での事故があった場合の対処の仕方とか、現状では難しい問題もあります。そのような背景から会員さんの身分保障を鑑みた限りにおいては、早急に派遣への移行は避けて通れません。発注元並びに会員の皆様に丁寧な説明をして理解を求めていく作業が必要だと考えます。ご理解ください。

### 2. 新規事業開拓で就業率のアップを図る

毎年計画に登場するのがこの案件です。横芝光町シルバー人材センターの就業率は低く、懸案事項になっています。体力に不安のある者、免許を返納した者、当センターの業務に対応できない者等、就業につけていない者に如何にして働く場を提供できるのか、常に模索しています。横芝光町という地域性を考えた場合、独自事業や、新規事業などの開拓が必要かと思えます。まず、考えられるのは体への負担が少ない仕事、例えば刃物研ぎ、洋服のリサイクル、光風館内の和室を利用しての学童保育等、近隣の農地を借りて「シルバー農園」(仮称)を開設して、野菜、花苗などの栽培から直売所を設けて販売まで会員の手で行うなど、いろいろ開拓の余地はあります。まだ具体的なものはありませんが、皆様の知恵をお借りして進むべき道を歩めたらと思っています。その取り組みが実現できれば会員増大の道も開けていくことでしょう。

### 3. 互助会での活動を前進させて女性会員100人計画を推進する。

令和6年1月末現在、当センターの会員数は、男性116名、女性66名、合計182名となっております。男性63.7%、女性36.3%と女性の会員数が依然として低い数値を示しています。毎月第3水曜日に女性会員予備軍を主

体に参加していただいて、「サロン」を開催して様々な活動をしながら会員取り込みに努力しております。それでも数値が示すように、伸び悩んでいるのが現状です。しかしながら、女性会員の増加が今後のセンターの運営には不可欠なことは否めません。100人計画は無謀な数字に移るかもしれませんが、避けて通ることができない大命題です。皆様のお知恵を拝借して、なんとか高みを目指したいと思えます。

#### 4. 業務形態を根本から見直しデジタル化への積極的な取り組みをする。

ここ数年来センターの業務の形態及び実態を肌で感じ実際経験してきましたが、あまりにも煩雑で無駄が多い事に、「何とか改善をしていかないと」、という思いが常に胸の奥底にありました。社会の潮流も今まさに人手不足も相まって、デジタル化がものすごい勢いで進んでいます。コロナ禍で人の往来がままならなくなり、「在宅ワーク」や「ウェブ会議」と言ったことが、一気に加速したことはご存じのとおりです。全シ連でも積極的にセンター業務の「デジタル化」に本腰を入れております。当センターでも、事務局体制を強化し一般業務の「デジタル化」に今まさに舵を切っているところです。近い将来体制が整い次第班ごとの説明会を丁寧に始めるつもりです。

#### 5. ボランティア活動の実施

センターの根幹理念でもある奉仕を軸とした社会貢献と活力あるセンター作りを皆さんとともに目指していこうと思えます。当センターでも従来、年 2 回くらいのボランティア活動をして参りました。が、しかしながら年末の大掃除はさておき、町庁舎周りの草刈り作業は、予算不足からくるものでした。それも昨年度からはなくなりました。センターの業績も年々増加しております。また、会員数も前述した通り 180 名を超えております。このような現状を鑑みても社会貢献という意味では立ち遅れているのではないかと感じる感否めません。清掃、草刈、児童見守りなどの各種ボランティア等すぐに始められるものが数多くありますが、それにはまず、役員はじめ会員の皆様のご理解と結束力が必要です。どうかこの件についてもご協力をお願いします。

#### 6. 安全就業の徹底と見直し

令和 5 年度も例年に負けず、飛び石等による事故が多数発生しました。いろいろと対策を練って参りましたが、あまり効果はありませんでした。結論的に言えば会員の皆様 1 人 1 人の自覚が必要なことは明白なのですが、それを如何にして徹底させていくのか、心痛めるところです。根本的なところ、処罰の見直しをしてみるとか、講習会等を通して啓発を行っていくしかないのかなと考えています。どんな対策を講じても三日坊主で継続してくれませんでした。今後は、根気強く粘り強く付き合っていこうと思えます。小さな事故が重篤事故に繋がっていくことは明白です。基本に立ち返って頑張っ参りま

しょう。

以上、令和 6 年度の事業計画を企てましたが、役員の皆様はもとより、会員の皆様 1 人 1 人が一丸となってこれからの一年を過ごしていきましょう。